

# 物語としての歴史と年表としての歴史

## ローマ字文化圏と漢字文化圏における相異なる歴史叙述の方法について

佐藤正幸

### はじめに

いつの時代においても、比較することは事物の性質を特定するのに有効な方法である。William Camden (1551-1623) の *Britannia* (1586) を最初に読んだ時、筆者の脳裏に浮かんだのは、北宋の歴史家司馬光(1019-1086)の『資治通鑑』(1084)であった。両者はそれぞれにローマ字文化圏と漢字文化圏を代表する一国誌だ。カムデンはイングランド・スコットランド・ウェールズ・アイルランドを包摂統合した著述を志向し、ブリテン国誌とでもいうべき千頁を超える大著『ブリタニア』を完成した。一方、司馬光は中国歴代の紀伝体正史を解体し、出来事を年代順に並び替えた年表形式の通志『資治通鑑』全 294 巻を編纂した。

両書は、「ストーリーを軸にしたローマ字文化圏の歴史叙述」と「年月日を軸にした漢字文化圏の歴史叙述」という、それぞれの文化伝統に忠実な歴史叙述の元型（アーキタイプ）といえる<sup>1</sup>。これらの伝統は現在も継続している。今回は、カムデンの『ブリタニア』と司馬光の『資治通鑑』を手掛かりにして、ナショナル・アイデンティティー形成に果たす歴史の役割について考察したい。

### ウィリアム・カムデンと『ブリタニア』

ウィリアム・カムデンは、英国エリザベス一世時代の好古家・歴史家である。ロンドンに生まれオックスフォード大学に学んだ後、教職に就き、1593 年にはウェストミンスター・スクールのマスターに就任した。

1570 年代より英国各地を訪ねて資料を集め、1586 年『ブリタニア』をラテン語で出版し、加筆訂正を加えながら、1610 年には英語版を刊行した。これと平行して、ウィリアム・セシルの要請でエリザベス一世の歴史を書き始め、『エリザベス女王年代記』を執筆した。

『ブリタニア』は英国各地の山川・古跡・地名等の地誌的記述をベースにして、それに歴史的視点を加えながら記述している<sup>2</sup>。一例を示したい。以下の紹介部分は、Cambridge の Gog Magog Hills を記述した頁である。丘自体は何の変哲も無いものがある。しかしカムデンは、この名称は『旧約聖書』エゼキエル書 38 章に出ており、Gog は人名、Magog はその支配地で、神に逆らう勢力に由来するとして、以下のような歴史的視点から説明している<sup>3</sup>。

Hard by Cambridge to the South-East, are certain high hills, by the Students call'd Gogmagog-hills, by Henry of Huntingdon, the most pleasant hills of Balsham, from a village at the foot of them, where, as he says, the Danes committed all the Barbarities imaginable.

### 司馬光と『資治通鑑』

司馬光は、11 世紀に活躍した北宋の政治家・歴史家である。科挙で進士合格の後、地方官を歴任し、後に首都開封に戻ったが、ライバルの王安石と対立して遠ざけられた。この間それまでの紀伝体による正史等を解体し、編年体の通史を編纂した。まず『稽古録』を出版してその編纂方法を会得し、数人の協力者を得て『資治通鑑』全 294 巻を 1084 年に完成した。

以下では『資治通鑑』の編纂意図を簡明に表現している『稽古録』巻 12 「歴年図」を紹介したい。この部分は、最初の年号である建元元年(B.C.140)のところである。注目すべきことは、年表記が主で出来事は簡明な記述体裁であることだ。尚、稽古とは「いにしえ（古）をかなが（稽）える」の意味である<sup>4</sup>。

景帝元年夏復收民田半租二御史大夫晁錯患諸侯强大請以過稍削其・・・武帝建元元年春行三銖錢二〇三春河決平原大饑人相食〇秋閩越圍東甌東甌來告急帝使太中大夫嚴助發會稽兵救之未至閩越走・・・

行替えという発想は漢文著述にはほとんど無いが、年号に大文字を使用し、出来事を小文字にして版木に彫ることで、編年というスタイルが強調され、紀年を軸にした歴史の表現方法が採られている。

### ナショナル・アイデンティティー喧伝のためのプロパガンダ；英国・カムデンの場合

1603 年、スコットランド王ジェームズ 6 世がイングランド王・アイルランド王ジェームズ 1 世として即位した。ここに「同君連合」が成立することとなり、現在の連合王国(The United Kingdom)の礎が築かれた。

カムデンの著書『ブリタニア』が最初にラテン語で出版されたのは、グレートブリテン島がひとつの大きな国家になったことを、ヨーロッパ大陸でラテン・アルファベット（ローマ字）を使用している国々に知らしめることであった。

### ナショナル・アイデンティティー喧伝のためのプロパガンダ；北宋・司馬光の場合

司馬光の生きた 11 世紀の時代は、北方に勢力を張る遼（契丹族）が北宋を熾烈に圧迫し続けていた時代であった。政治家でもあった司馬光は、この脅威に対抗する思想的手段として、歴史を使用することを考え

ついたと言える。

本書は漢民族国家である宋のナショナル・アイデンティティーを確立するための著述と考えられる。つまり、編年体的年表形式を採用することで、これまでの漢民族国家の長い歴史を時間軸の中で再確認することによって、自国の正統性を主張するためであった。

漢文は漢字文化圏における域内共通文語であるので、そのまま対外的プロパガンダにもなるのだが、この著述は対外的プロパガンダというより、国内知識人のナショナル・アイデンティティーを鼓舞するものであったと考えた方が良い。なぜならその力点は年表＝時間軸に置かれているからであり、カムデンの『ブリタニア』がブリテン島という地域＝空間軸に力点を置いた記述であったのと対照的だからである。

## ナショナル・アイデンティティー喧伝ためのプロパガンダ；日本の場合

比較研究は時として思いもかけない研究視点を与えてくれる。今回のテーマが筆者に与えてくれた問いは「日本においては対外的にナショナル・アイデンティティーを喧伝した書物が歴史上あったのだろうか？」である。以下が、管見の限りでの答えだ。

日本におけるナショナル・アイデンティティーのための対外的プロパガンダは、漢文で書かれた『日本書紀』(720)が最初である<sup>5</sup>。その次は、日露戦争(1904-1905)まで待たねばならなかった。日露戦争時には、ヨーロッパに向けては末松謙澄(1855-1920)が2冊の書物(*A Fantasy of Far Japan*, (1905); *The Risen Sun*, (1905))を英語で出版した。アメリカに向けては金子堅太郎(1853-1942)が米国各地で講演を行い、朝河貫一(1873-1948)が*The Russo-Japanese Conflict*, (1905)を刊行したのが注目される。

確かに、江戸幕府の歴史編纂事業には『本朝通鑑』(1670)がある。これは漢文の年表であり、当初『本朝編年録』と題していたが、司馬光の『資治通鑑』を模して『本朝通鑑』に書名が変更された。漢文で書かれているが、これは国内向けの著述と考えられる。なぜなら、もし著者が対外意識をもって著述しているのなら、表題に本朝という用語を使用することは有り得ないからだ。

## 現在の歴史叙述に残るストーリー中心と編年中心

この150年の間に日本の歴史叙述はヨーロッパ型のストーリーを中心としたものがほとんどを占めるようになった。しかし年表的叙述を物語的叙述より上と考える東アジア的伝統は現在でも続いている。日本における編年中心の歴史叙述の伝統を見てみよう。

(1)由良哲次(1897-1979)は『南北朝編年史』(1964)の序・凡例で、数十年に亘って書き継いできた自分のライフワークである南北朝史を出版するにあたり、物語的叙述より、年月日を軸にした編年体による年表的歴史叙述の方が歴史研究には相応しいとして、1472頁の編年史として出版する、と記している<sup>6</sup>。

(2)地域史のケースでは『山梨県史』全29巻(1996-2008)がある。有泉貞夫(1932-2022)はこの編纂責任者を務め、その概説として『山梨県のあゆみ』(2008)を執筆した。刊行後、有泉は編纂委員のひとりであった筆者に次のように語った。「山梨県史概説は、物語的叙述より年表的叙述が好ましかった。物語的叙述は数年後に別人の著述にとって替わられるが、年表は一度作成すると永遠に残る。」

(3)『昭和天皇実録』全19冊(2015-2019)。実録とは、漢字文化圏において6世紀から行われている歴史編纂事業であり、皇帝・天皇各代の言行を年月日順に編年体で叙述した公式記録である。著者は宮内庁となっており、編纂に関わった人物の個人名はない。『エリザベス女王年代記(*Annales*)』全2巻(1615, 1625)が、ウィリアム・カムデン個人の著書として公刊されているのと比較すると、編年中心の歴史叙述とストーリー中心の歴史叙述というそれぞれの文化圏の持つ歴史叙述の伝統が不動であることが分かる。

## 結論・比較研究の根拠

上記のような比較研究を行う根拠として、数学者アンリ・ポアンカレの次の言葉を挙げたい。

数学とは異なるものと同じ名辞をつける技術である(La mathématique est l'art de donner le même nom à des choses différentes.)<sup>7</sup>

いつの時代においても、比較することは事物の性質を特定する出発点である。そしてこれらの微妙な違いの比較考察から予期せぬ発見が生まれるのだ。

<sup>1</sup> 佐藤正幸『ホモ・ヒストリクスは年を数える』(4)(5)(6) <ストーリーにこだわる文化と年月日にこだわる文化>(2019.4.12,13,14.)

*The Page*; <https://news.yahoo.co.jp/articles/e9927aebdaa7277af30ae1b3c461f549c70ad2d>.

<sup>2</sup> 高野美千代『17世紀英国の書物の世界』(ブイツーソリューション, 2022) pp.10-21.

<sup>3</sup> William Camden, *Britannia*, (F. Collins, 1695) 英訳版 p.405.

<sup>4</sup> 稲葉一郎「『資治通鑑』の成立過程に関する一考察」『史林』74(4)1991, pp.461-483.

<sup>5</sup> Masayuki Sato, "Toneri" in *The Great Historians from Antiquity to 1800*, (NY: Greenwood Press, 1989), pp.293-295.

<sup>6</sup> 由良哲次『南北朝編年史』(吉川弘文館, 1964), pp.1-6.

<sup>7</sup> ポアンカレ(吉田洋一訳)『科学と方法』(1908)岩波文庫 p.37. Henri Poincaré, *Science et méthode* (Paris:Ernest Flammarion, 1908), p.17.